



苗雲



鹿児島県立
大口高等学校

〒895-2511 伊佐市大口里2670

TEL 0995-22-1441 FAX 0995-22-9227

大口高校だより

9月6日(土)は体育祭です!

中学生一日体験入学

7月31日、中学3年生を対象とした一日体験入学を開催したところ、大口中央中学校、菱刈中学校、栗野中学校から45人の参加がありました。

国語、数学、英語に分かれて授業を体験し、その後自分の関心のある部活動で体験をしました。感想には「英語が楽しかった。」「大口高校で陸上を頑張りたい。」などとありました。



3年生勉強合宿

8月6日から2泊3日の日程で、3年生の希望者18人が、霧島市横川の丸岡さくら館で勉強合宿に臨みました。

本校英語科の阪本先生も駆けつけ、授業をしてくださいました。大阪で大学受験指導のスペシャリストとしてその名を轟かせ、文部科学大臣表彰も受けた先生の授業に、生徒たちは目を輝かせていました。3年生の皆さん、目標に向かって頑張ってください。



性教育講座,SOSの出し方講話

7月8日、性教育講座を実施しました。学年ごとにテーマを決め、それぞれの専門家の先生に講義をしてもらいました。また翌9日には、スクールカウンセラーの永里美紅先生に、SOSの出し方についての講話をしていただきました。

永里先生は、ゲートキーパーについての職員研修もしてくださいました。



2年生、グレードアップゼミ参加

8月4・5日、県教育委員会が主催する2年生対象のグレードアップゼミが、鹿児島中央高校で開催されました。本校からは8人参加しました。参加した池田瑠南さんは「他の高校生と一緒に授業を受け、刺激を受けた。」と感想を述べました。

写真は地理の授業の様子で、講師は本校の嶽釜先生です。嶽釜先生は、ICT機器を活用して資料やデータを提示し、生徒に考えさせる授業で定評のある先生です。今回のグレードアップゼミの講師に抜擢されました。



救急救命講習会

7月22日、1年生全員、2・3年生の保健委員、各部活動の代表者、そして教職員を対象とした救急救命講習会を実施しました。

最初に、伊佐湧水消防組合の職員から「胸骨圧迫及びAEDの取り扱い方」についての指導を受け、その後、グループに分かれて実際に体験をしました。



「どんかご」防災特集

8・6水害から32年を迎えた8月6日放送のMBC「どんと鹿児島」で、防災特集が組まれました。番組では本校生が防災をテーマにした謎解き脱出ゲームやメタバース（仮想空間）を使った模擬体験に取り組んでいることが紹介されました。

本校生の防災の取組は大阪・関西万博でも紹介され、生徒目線で世界に向け発信しました。



総探フィールドワーク

20年後のまちづくりのマスタープランを策定するに当たり、本校の1年生は伊佐市から研究員の委嘱を受けて活動しています。

7月23・24日には、テーマごとに分けられている班単位で現地視察を行いました。市役所新庁舎の工事現場や大口城跡など通常は見ることのない現場を、実際に自分たちの目で確認しました。

特に大口城跡では、10年近くボランティアで整備作業を続けている「城山を愛する会」の新東晃一会長（本校OB）が、詳しく丁寧に解説をしてくださいました。



世界に羽ばたけ大口高校生

3年生の堀ノ内咲良さんが鹿児島県青少年国際協力体験事業で、夏休みにベトナムを訪問してきました。9月には2年生の林優希君が県教育委員会主催の交流事業で台湾を訪問することになっています。生徒たちには、どんどん海外に目を向け、見聞を広げてもらいたいと思います。

そういう私は、薩摩藩英国留学生渡航160年記念事業で、イギリスの「ジャパン・ハウス・ロンドン」という日本文化を紹介する外務省の施設で講演をしてきました。気が重い依頼でしたが、生徒にはいつも「世界に飛び出せ。」「目の前のチャンスを逃さず、積極的に挑戦しなさい。」と言っている手前、断るという選択はせず引き受けた次第です。

講演はYouTubeにあがっていますので、「Satsuma Students」と検索してみてください。(校長 吉満庄司)



大口高校ふるさと歴史講座「伊佐の地で語る西郷隆盛と西南戦争」要旨その2

6月18日(水)～28日(土)に開催した「大口高校ふるさと歴史講座」の要旨を3回に分けて紹介しています。2回目となる今回は、新東先生、竹川先生、萩原先生の講座の要旨を掲載します。



【第3回目】6月23日(月)18:00～20:00

講 師：新東 晃一 先生（南九州郷土研究会会長）

大口高校を卒業後、岡山理科大学に進学。鹿児島県教育委員会の職員として各地の遺跡の発掘調査を手がけ、歴史資料センター黎明館や上野原縄文の森の創設にも尽力。現在は「大口城を愛する会」の会長として、新納忠元の居城である大口城跡をボランティアで整備作業を続けている。



テーマ：「大口における西南戦争～戦跡と出陣者の資料調査より～」

霧島を中心とする地域には、出兵兵士の「武運長久」を願って鉄製の鉾を神社や祠に奉納する習わしがありました。これは、西南戦争に限ったことではなく、日露戦争の際にも見られることで、霧島信仰と深い関わりがあると考えられています。例えば軍神を祭った伊佐市の素賀嶽神社（須賀嶽神社）には鉄鉾が65本確認されました。

また、各地の慰霊塔（供養塔）を丁寧に調査することで、郷土誌などには出てこない人名が刻まれていたりします。ゴールデンウィークに、永岩助左衛門のご子孫と一緒に熊本まで行き、亡くなった場所を慰霊碑で確認してきました。

伊佐市内には西南戦争関連の遺跡がたくさん存在しますが、特に高熊山激戦地跡は、西郷軍と官軍の間で文字通り激戦が行われた場所です。頂上には当時の塹壕がちゃんと残っています。ここは対峙する坊主石山とセットで見なければなりません。坊主石山にも塹壕の跡は確認できます。

最後に、我々「大口城を愛する会」は、10年近く前から大口城跡の整備をボランティアで行っていますが、大口城跡にも西南戦争の塹壕跡が確認されています。来年の新納忠元生誕500年と併せて、再来年の西南戦争150周年についても、伊佐市には一過性のイベントだけでなく、意義ある記念事業も行ってもらいたいと思います。



【第4回目】6月25日(水)18:00～20:00

講 師：竹川 克幸 先生（日本経済大学教授）

鹿児島大学大学院修士課程を修了後、九州大学大学院博士課程を経て、現在は日本経済大学教授。専門は明治維新で、薩摩藩の集成館事業に功績のあった石河確太郎や、太宰府における五卿の動向と西郷隆盛について研究。大学では「地域連携センター」のセンター長を兼務している。



テーマ：「幕末・維新の志士 西郷隆盛の国事周旋」

西郷隆盛は、江戸の薩摩藩邸において藩主島津斉彬の薫陶を受け、他藩の有識者や藩士との交流を深めながら勤王の志士としての素質が開花し、人脈を広げていきます。しかし、安政五年の斉彬の急逝によって挫折します。

その後、勤王僧月照との錦江湾入水などを経て、二度にわたる奄美での生活を経験します。再び藩に復帰するのは元治元年のことで、「軍賦役・他藩応接役」として藩を代表し国事周旋に奔走し、禁門の変や第一次長州出兵などで活躍します。

特に注目されるのが、太宰府における三条実美ら五卿と薩摩藩・西郷隆盛との関係です。五卿を巡る薩摩藩の動きは重要で、西郷や大山格之助（綱良）、黒田嘉右衛門（清綱）ら薩摩藩士や坂本龍馬や中岡慎太郎らが往来しています。

西郷は、慶応2年には薩長同盟、第二次長州出兵、慶応3年には薩土盟約、大政奉還、王政復古、慶応4年には戊辰戦争、江戸無血開城と薩摩藩を代表して活躍していきます。ただし、西郷が全て単独で藩を動かしたわけではなく、順聖公（斉彬）の御遺志を継承し、あくまで藩主島津忠義と国父島津久光の判断・指示の下での行動でした。また、藩政を統括していたのが小松帯刀や桂久武などの家老であったということが最近分かってきています。



【第5回目】6月27日(金)18:00～20:00

講 師：萩原 和孝 先生（第一工科大学准教授）

鹿児島大学大学院博士後期課程単位取得後退学。後に博士（学術）の学位取得。戦前・戦中の郷土教育実践史や教育活動における西郷隆盛など郷土の偉人の扱われ方などを研究。西郷南洲顕彰会においては、吉満校長、竹川教授らとともに専門委員を務める。



テーマ：「郷土教育の中で西郷隆盛はどのように語られてきたか」

明治36年の国定教科書では、西郷隆盛が挙兵したと書かれています。その後、挙兵の主体が西郷ではなく周りの青年になっていきます。昭和18年の国定教科書では「青年たちは隆盛を押し立てて挙兵した」となりました。楠木正成のように英雄視することもなく、足利尊氏のように天皇に反旗を翻した人物として書かれることもありませんでした。

鹿児島市城山の西郷銅像は昭和12年に建立されますが、この年、盧溝橋事件が起こり日中戦争に突入します。したがって、東京上野の着流しの西郷ではなく、「大陸政策」を主張した勇ましい軍服姿の西郷のイメージが必要でした。

四十五連隊の出征兵士たちは、伊敷の兵営・練兵所から徒歩で鹿児島駅に向かいますが、西郷銅像はその途中にあり、その前を歩いていきます。兵士の出征を鼓舞し、戦意高揚のための空間演出の一つとして機能していた訳です。

昭和19年に鹿児島市の西別府に西郷「自ら耕作」したと書かれた「西郷南洲野屋敷跡碑」が建てられます。これは、総力戦の一環として農作業への勤労働員を奮起させるためと考えられます。

かつて、鹿児島市の勝目清市長は、「私は西郷を神としてではなく一個の人間として研究してみたい。人間である以上、失敗もあれば成功もあるのは当然である。」と述べています。ある特定の人物を顕彰する際は、負の側面も含めて客観的に冷静に評価することが重要だと思います。